

志をつなぐために

～ロータリーの本質から会員増強を考える～

2025年8月5日

帯広東ロータリークラブ

会員増強・ロータリー情報委員会

委員長 角 高紀

はじめに

-
- 目的は『数』ではなく『志の継承』
 - 会員増強は未来への投資
 - 会員を増やしたいという「意思」と「行動」が必要

会員増強を推進していくために

-
- 候補者から見て敷居が高い、時間的制約、認知不足・・・
 - 『知られていない』が最大の壁ではないか
 - 魅力と価値を伝える努力が不足



地区スローガン: Rotaryのことを熱く語ろう!

クラブスローガン: 知るを深める～聴こう・話そう・やってみよう～

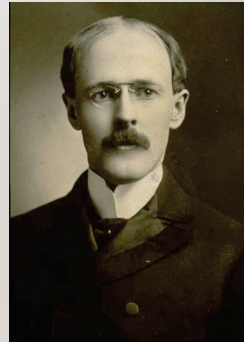
ロータリーの本質を知る

～知るを深める～

- ロータリーはどのように誕生し、どのように変遷してきたか
- ロータリーの歴史を知ることから始めてみてはどうでしょうか

ロータリーの原点 ポール・ハリス

- 1905年 ポール・ハリスによる創設
- 親睦団体をつくり親戚づきあいのような関係をつくりたい
- 1業種1社にすることで、本当の親睦が得られるだろう
- 事務所持ち回り(輪番制)で会合するので、ロータリークラブという名前になる
- ロータリーとは寛容 (toleration) である



ポール・ハリス

1868年生(明治元年)～1947年(昭和22年)

決議23-34

1923年アメリカのセントルイスで開かれた国際ロータリー大会で正式に決議

- ①政治や宗教の問題には関わりません。
特定の政党や宗教の立場をクラブが取ることはありません。
- ②どんな信仰や考え方の人でも参加できます。
多様な人々が集まるのが大切だからです。
- ③個人が信念を持つのは自由です。
ただし、それをクラブの活動として押しつけないようにします。
- ④私たちの共通点は「奉仕の心」です。
政治でも宗教でもなく、「社会や人のために尽くす心」を大事にします。

ロータリーの偉人 フレデリック・シェルドン

- 1908年頃入会
- ロータリー哲学の基本となる第1標語、第2標語をつくった方、1923年に採択された(決議23-34)
- ①超我の奉仕(第1標語)
- ②最も良く奉仕する者、最も多く報いられる(第2標語)



フレデリック・シェルドン

1868年(明治元年)～1935年(昭和10年)

ロータリーの偉人 ガイ・ガンディカー

- 初期ロータリーの教科書と言われる「A Talking knowledge of Rotary」の著者(日本語版「ロータリー通解」)
- 1923-24年度 RI会長
『ロータリーの目的』
 - ①会員一人一人の向上
 - ②会員事業の向上
 - ③会員の同業者・業界の向上
 - ④会員の家庭・地域・国ならびに社会全体の向上



ガイ・ガンディカー

1881年(明治14年)～1962年(昭和37年)

ロータリーの偉人 米山梅吉

- 三井財閥の要職を歴任
- 1920年(大正9年)日本初のロータリークラブ東京ロータリークラブを創立する
- ロータリーの理念を日本に根づかせるべく、“奉仕の精神”を広め、国内クラブの発展に貢献
- 日本ロータリー界の父と称され、戦後「米山記念奨学会」創設の名の由来となる



米山梅吉
1868年(明治元年) - 1945年(昭和20年)

ロータリー運動の研究者 小堀憲助

- 中央大学名誉教授・弁護士
- ロータリー研究家で長崎大村北RC名誉会員、一旦ロータリーを離れ、田無RCに復帰
- 昭和46年ロータリー理論研究会の設立

著書:

ガイ・ガンディカー「ロータリー通解」翻訳
「ロータリー・クラブ」—その理論と実態と批判—



小堀憲助
1926年(大正15年) - 2017年6月9日

書籍「ロータリー・クラブ—その理論と実態と批判—」

要旨解説

ロータリーを理念・歴史・制度の側面から学術的に捉え直した名著です。

小堀憲助氏は、ロータリーを「精神運動」と位置づけ、形式的な奉仕や社交ではなく、「理念を生きること」の重要性を説いています。

ポール・ハリスの創設動機や当時の社会背景にも触れつつ、職業分類制度や四つのテストといった制度の意味や限界を検討しています。

また、形式主義への警鐘も鳴らし、若い世代がロータリーの本質を見つめ直し、理念の継承者となることを促しています。

ロータリーを深く理解するための入門書としても、現在でも大きな価値を持つ一冊となっています。

※ロータリー文庫からPDF版をダウンロードできます。

ロータリーで得られること 田中久夫氏の著書「ロータリークラブに入ろう!」から引用

- ①人生で、是非とも持たなくてはならない知己が得られる
- ②純粋で健全な親睦というものがどんなに良いものかを知ることができる
- ③どうすれば仕事が成功し、問題解決ができるかについて、啓発を受けることができる
- ④効率が高い経営方法とは何かについて、知らず知らずのうちに教育が受けられる
- ⑤多くの自分の知らない情報が得られ、先見の明を授けられることができる
- ⑥自分の思考の限界を知り、もって転機を得ることができる
- ⑦知己を広め、自分を他に理解してもらう機会が与えられ、そのことが自分の企業に対する信頼に繋がり、その結果として企業上の利益になる
- ⑧各自が社会の指導者となるだけの訓練を受けられる
- ⑨自分を人間的に磨くことができる

ロータリー、クラブの魅力を伝える (会員増強ツール)

- 書籍「ロータリークラブに入ろう!」(著者:田中久夫氏)
- 入会案内のしおり
- 帯広市まちなか案内図、帯広まちなか歴史案内板
- 同好会活動(ゴルフ、お酒を愉しむ会、旅行会、バイク、詩吟、麻雀・・・)
- HPに掲載している活動報告

私たちができること

- ① ロータリー、クラブの魅力を再確認
- ② 出会いの機会で候補者として認知する
- ③ 候補者にロータリー、クラブのことを自分の言葉で語る

東クラブの未来のために

- 創立50周年に向けて、50名を超える会員数をを目指す
- そのための新しい仲間の力
- 一人ひとりがロータリー、クラブのことを語れる存在に
- 候補者の情報提供をお願いいたします